

分娩直後の母親の行動

島田 信宏（北里大学病院）

野村 紀子（ " ）

前回は、分娩直後の、母児初回対面時に、母親の行動に違いのあることを出発点として、その子供に、自発的に接触しようとする母親群と、接触しようとしなかった母親群との比率、また、それぞれの母親群に共通する背景や因子について、調査検討を行った。

母親が、我が子を接触によって、確かめようとする行動は、生得的なものであると言われている。したがって、母親の脳に存在する育児システムは、我が子との対面によって開始するといえる。しかし、我が子との接触という行動から、育児システムが開始されるならば、接触しようとしなかった母親群は、その育児システムの開始が遅れるともいえる。母親自身が、その乳幼児期にすぎた家族関係や、幼少期の母子関係によって、母性意識の本質に影響を与え、母親自身の情緒をも左右するという。接触しようとしなかった母親群に育児システムの遅れがあったとしたならば、それぞれの母親群において、幼少期の体験や、家族関係が影響を与えるという共通因子を見つけ出す必要があると考える。

前回の調査では、接触を行おうとする母親群は、ある程度の教育を受け、妊娠、出産に対して、積極的姿勢のある母親群であるという傾向がつかめた。今回の調査では、それぞれの母親の幼少期を調査し、接触を行おうとする母親群と、接触をしない母親群との幼少期の背景について、調査検討を加えたいと考える。また、前回の調査結果を報告した際、母親の助言と、新生児の state との関連について、調査をする必要がある。という助言

をいただいた。今回は、初回対面時の、新生児の state と、母親の表情を、フィルムでとらえ、比較分析することを加えたい。

調査表（別紙添布）による質問は、1～7までとし、入院時、産科病棟での面接調査とする。質問、8については、前回の調査と同様に、分娩直後の、母児の初回対面時の場面を、分娩介助を行った助産婦が観察し、記入する。質問、9、10の項については、新生児室で行う、初回授乳時の母親の行動を観察し、記入することとする。

昭和58年度研究報告

前回の調査では、新生児との、初回対面時に、接触を行おうとする母親群は、ある程度の教育を受け、妊娠、出産に対して積極的姿勢のある母親達であるという傾向をみるにとどまった。今回の調査では、それぞれの母親の幼少期を調査し、接触を行おうとする母親と、接触しない母親との幼少期の違いを調査したいと考える。また、初回対面時の新生児の state と、母親の表情を、フィルムでとらえ、接触場面を比較分析したいと考えている。

本年度の、この研究については、臨床の看護婦や助産婦の協力を得る必要がある。しかし、前回調査時と、臨床スタッフが、同じ人達ではないため、「母子相互作用」についての文献上の研修会を行っている。産科病棟、新生児室での臨床スタッフ、約40名のコンセンサスをとっている段階であり、3月から、調査を開始した。

(母子相互作用研究)

調査表(2)

月 日

初産婦 経産婦

調査内容

1. 貴方の母親像 (やさしい) 5 4 3 2 1 (きびしい)
2. 貴方はどんな栄養法によって育てられましたか。
① 母乳 ② ミルク ③ 混合 ④ 不明
3. 主に誰れに育てられましたか。
① 実母 ② 養母 ③ 祖母 ④ その他()
4. 同胞はいますか。
① 1人 ② 2人 ③ 3人 ④ 4人 ⑤ その他()
5. 貴方は
① 長女 ② 次女 ③ 三女 ④ 末子
6. 自分の子供が生まれる前に、子供の世話をした事がありますか。
① ある ② ない
7. 子供は好きですか。
① 好き ② あまり好きではない ③ 嫌い
8. 初回対面時(分娩直後)に手を出して子供にふれようとしたか。
① はい ② いいえ
9. 初回授乳時の母親の言動
① 語りかけながら ③ 無言
② 微笑ながら ④ 無表情で機械的
10. 初回授乳終了後、何分抱いていたか。
① 10分以内 ② 10分以上